

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和6年3月8日

事業所名 越前市児童発達支援センターなないろ 専門支援教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			
	2	職員の配置数は適切である	8			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		それぞれの利用児によって環境を変え、一人一人に合わせた構造化を実施しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		個別療育が終わるごとに換気・使用物品の消毒を実施し、すべての療育終了後には消毒を含めた掃除を徹底しています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8		ケース会議や事例検討会、日々の振り返りなどを行いスタッフ間で情報共有しています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	1	保護者等向け評価・事業所向け評価は今年度からになります。	評価表をもとに、来年度からもより良い療育が提供できるような体制の構築を目指します。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	4		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3	第三者による外部評価は行っていません。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		積極的な外部勉強会参加のみならず、事業所内での勉強会も毎週行い、スタッフの質向上に努めています。	今後もスタッフのさらなるスキルアップのために、積極的に勉強会の参加を行って参ります。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2	ふくいっ子ファイルを使用してアセスメント行いながら、状況調べや相談支援専門員から情報を基に把握しています。	

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	2	個別療育なので基本的に担当者がプログラムを作成、症例に合わせて事例検討会を行い、遂行しています。	事例検討会や日々の振り返りを通じて、スタッフで情報共有しながらより良い療育やプログラムが遂行できるように今後も努力していきます。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	2	個別教室なので、個別の活動についての計画がメインですが、集団活動に必要なスキルは計画に入れて療育を展開しています。また必要時はスタッフと打合せを行い、役割分担や療育の流れを確認し、スムーズで最適な療育が展開できるようにしています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	2		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		業務終了時にはミーティングを行い、日々の療育を振り返り、報告・相談する場を設けています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8			
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8				
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8		直接のやり取りはありませんが、保護者を通じて連絡が取れる体制を構築しています。		
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6	2			

関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	2	支援会議を通じて、情報共有・各機関との連携を図っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	2		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	4	特に設けていませんが、利用児の通う園へ訪問し、集団でよいよい過ごし方等の助言を行っています。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	2	管理者や相談支援専門員が参加し、地域との連携を図っています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8			今後も保護者様の声に耳を傾けながら、問題解決について一緒に考えていきます。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	1	早期支援教室と合同で実施しています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	2	契約時、管理者もしくは担当者から説明させていただいています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	3	早期支援教室と合同で実施しています。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	1	必要があった時には、適宜対応させていただいています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	3	毎月活動便りを作成し、HPや施設内に掲載しています。	より多くの皆様に読んでいただけるように、掲載や配布方法を考慮していきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	4	定期的に見学等の受け入れを行っています。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	3	定期的避難経路の説明をさせていただいています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	3		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	4	保護者様から情報を共有させて頂きながら、状態把握に努めています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	5	食事の支援を行っていないため、指示書等はいただいていませんが、おやつのアレルギー有無は保護者様にお伺いしながら対応しています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		虐待防止委員会を設置し、定期的な研修会も実施しています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8			

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月8日

事業所名 越前市児童発達支援センターなないろ 専門支援教室

		チェック項目	はい	どちら も いい ない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6				
	2	職員の配置数は適切である	6				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6				
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6			ケース検討や事例検討会・日々の振り返りなどを実施し、よりよい療育の提供に努めています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		1	保護者等向け評価・事業所向け評価は今年度からになります。	評価表をもとに、来年度からもより良い療育が提供できるような体制の構築を目指します。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1	2		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	2	第三者により外部評価はまだ行っていません。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			積極的な外部勉強会参加のみならず、事業所内での勉強会も毎週行い、スタッフの質向上に努めています。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6				

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		2	ふくいつ子ファイルを使用してアセスメント行いながら、状況調べや相談支援専門員からの情報を基に状況を把握しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1	1	個別療育なので、基本的には担当者がプログラムを作成しています。相談やケース検討を実施しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6				
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3		3	平日のみの運営で個別にスキルアップを目指す療育を展開しています。	今後も本人様・保護者様のニーズを確認しながら、必要な時間と量の療育が提供できるように遂行していきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	1	個別療育なので、個別の活動についての計画がメインですが、集団活動に必要なスキルは計画に入れて療育を行っています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1		個別療育であるため基本的に担当者がプログラムを作成、症例に合わせて事例検討会を行い、遂行しています。	事例検討会や日々の振り返りを通じて、スタッフで情報共有しながらより良い療育やプログラムが遂行できるように今後も努力していきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6				

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	6				
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6				
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	2	2	2	母子通園のため、保護者様を通じて、情報共有を行っています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	2		直接のやり取りはありませんが、保護者様を通じて連絡が取れる体制になっています。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1	2	今のところ、就学前に利用していた園との共有は行っていませんが、今後は実施していく予定です。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4		2	今はまだ対象者がいません。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1		早期背支援教室との情報共有を実施しています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	2	特に設けていませんが、利用児の通う児童館等に訪問し、集団でのよりよい過ごし方の助言を行っています。	

保護者への説明責任等	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	4	1	1	管理者や相談支援専門員が参加し、地域との連携を図っています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6				
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5		1	早期支援教室と合同で実施しています。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	1	早期支援教室と合同で実施しています。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		1	毎月活動便りを作成し、HPや施設内に掲載しています。	より多くの皆様に読んでいただけるように、掲載や配布方法を考慮していきます。
	35	個人情報に十分注意している	6				
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6					
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	2	定期的に見学会などを実施しています。		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			定期的に避難経路の説明をさせていただいています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		1		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	3	1	基本、食事を摂る機会がないので実施していません。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6				